

EUIJ インターンシップ報告

国際基督教大学 国際関係学科 4年

島影 美知子

2006年6月末から同年9月初めまで2ヶ月ほどブリュッセルにある International Security Information Service, Europe (ISIS Europe) というシンクタンクに在籍させていただきました。本記事では ISIS Europe と私が得た経験について紹介させていただきます。

ISIS Europe

ISIS Europe は独立した調査機関であり、EU に関するリサーチや政策提言が活動の主要部分です。調査内容については欧州安保健政策 (ESDP) 関連の展開を分析した The European Security Review や安全保障における研究成果などの出版がいくつかあります。他にも EU の共通安全保障政策に関連した国際会議を開催しています。ISIS Europe の政策提言は研究活動によって支えられていて、これらは EU と NATO の機構改革、紛争解決、軍縮といった重点3分野の中に含まれているものです。

欧州委員会・欧州理事会事務局、欧州議会など EU の中枢機関のすぐ近くに ISIS Europe のオフィスがあります。私が在籍した間は夏季でもあり、所長であるスティーブン・プリンジャー氏以下2人の研究員が仕事をしていました。ISIS Europe の上記重点3分野を1人ずつで担当し、それぞれの分野での研究報告はホームページに掲載、また出版され、EU の各機関などに配布されます。私はそれぞれの補佐などを担当させていただきました。2回ほど行われたスタッフミーティングも聴講させていただき、メンバー相互の情報交換を通して同シンクタンクの方向性を把握することができました。

活動・経験

6月末から7月中旬にかけて様々なテーマをめぐる国際会議が数多くブラッセルで行われました。私の卒業研究 (EU の西バルカン政策) に深く関わりのある議題をテーマとする会議も開催されましたので、ISIS Europe のインターンとして参加させていただくことができました。そこでは実務家、専門家や欧州議会議員との討論や参加者との意見交換の場があり、現場の生の声を聞くことができ、ただ文献を読み込むよりも身のある素晴らしい機会となりました。

私の休暇期間中は卒業研究を進めると同時に9月中旬に行われた ISIS Europe 主催のパネル・ディスカッションの準備段階のお手伝いをさせていただきました。それにより EU 関連機関の仕組みや会議がどのように開催されるのかというものを少しずつ理解できるようになりました。

9週間という短い期間の中でのインターンでしたが、非常に有意義な時間を過ごすことができ、貴重な経験となりました。日本から遠く離れている欧州の地において EU 機関と密接に関わりあいのあるシンクタンクに在籍させていただいたことで現地の空気に触れることができ、私の研究課題である西バルカン諸国がとても身近になりました。日々揺れ動い

ている情勢を肌で感じることは、その状況を理解するには一番の方法だということを経験することができました。特に今年の夏はイスラエルーレバノン間での対立が激しくなり、またイランの核開発問題、ロンドンのテロの未遂事件など多くの事件があり、その中でEUがこれらの問題にどのような対応をしていくのかを身近に感じるすることができました。それにより日本で得られるよりもはるかに多くの情報を集めることができたと思っています。

最後になりましたが、今回のインターンはEUIJの奨学金なしには実現できませんでした。このような素晴らしい機会を与えてくださったEUIJ関係者の皆様へこの場を借りて心からのお礼を申し上げます。